

東京都立川都税事務所長賞

必ず、何かの意味がある

三鷹の森学園三鷹市立第三中学校

三年 藤岡 荘介

私たちは税に対し、批判的な意見が強いように思う。税とは国民の生活を豊かにするためにある筈なのに、なぜだろう。私は自身の中学校での部活動の経験をもとに、この疑問について考えてみた。

私は中学校のバレーボール部に所属し、最高学年となってからはキャプテンを務めていた。部活動では、練習の準備や片付けなどをサボるメンバーが増えれば、部活動をうまく回すことはできなくなってくる。国で例えると、練習の準備、片付けなどは、税ということになるのではないか。だが実際には、私の部だけに限らず、どこの部でもサボるメンバーは少なからずいる。しかし、彼らが準備や片付けをサボったり、ふざけてしまう理由も分かる。真面目にやることが自分の得になると思えないのだ。つまり、彼らには一方的にやらされ、何も得られない、罰のようなものであるという認識が強いのではないかと思う。そのような思いがあるのは人の心理としては普通なこと、キャプテンである私の中でさえ、そういった意識のかけらは存在していたように思う。だからこそ、どうしていいか分からず、キャプテンとして部活動をうまく回さねばという思いに駆られていた私は、注意の声が大きくなってしまいうことも多々あった。私は今の社会にも同じようなことが言えると考えている。税金をたくさん使っている政策であったり、増税であったりに対し私たちは、政治家たちがどういった意図を持ってその政策を掲げたのかを知ろうともしない人が大多数である。にも関わらず、批判ばかりしているような印象を受ける。

だが、練習の準備をすることだって、他人のために球拾いをする事だって、増税だって、何か意味がある筈ではないか。やらないよりは、やった方が自分のため、組織のためになるから、存在しているのではないか。私は、組織を運営していくために、所属するメンバーがきちんと税を支払うためには、「自分たちのためにやっているんだ」という意識が必要であると考えている。私は政治に詳しいというわけではないのであくまで例として考えてくれたらと思うが、私たちは増税の発表を受けると「税金をもっと多く支払わなければいけない」ということばかりに囚われ、「なぜ増税されたのか」について考えることは少ないように思う。ただ、気候変動や高齢化の問題を抱えている日本では、今増税をしなければ、国民は近い将来増税どころではないもっと大きい負担を強いられることになるのではないか。私たちは税の使われ方に対して、理由や意味を探ってみることが大切だと考える。